

現地からの声～司令部幕僚勤務編～

第2次ネパール国際平和協力隊員 豊田 剛至

私は2008年11月から、UNMIN軍事監視部門司令部のスタッフとして勤務しています。補職された役職は3つもあって、教育訓練幕僚、文書管理幕僚及び人事副幕僚です。なお、3職兼務はUNMIN史上初のことです。今回は教育訓練幕僚業務について、その重要性や外国人と付き合うときの苦労等をお話します。

教育訓練幕僚の主な職務は各国から新たにUNMINに配置されて来る軍人に対し、マオイストキャンプに展開する前に、現地での任務遂行に必要な基本的な事項を教育することです。ですが、私自身は直接教育を施すわけではなく、教育訓練の企画、調整及び実施の監督といったプランナー的役割を担うのです。

各国からUNMINに配置される時期には周期があり、そのピークは私が在任中の1月から3月にかけてでした。この期間に軍事監視要員のほぼ半分が交替するのです。よって、教育訓練計画の失敗はマオイストキャンプに展開できる軍事監視要員が十分確保できなくなり、ひいてはUNMINの軍事監視業務が遂行できなくなることを意味するため、教育訓練幕僚はとりわけ重要です。

私が立案した教育訓練計画に従って、実際に教育を実施するのは主として色々な国から来ている軍事監視部門以外の民間人です。彼らに対し、日本人らしく相応の礼儀を尽くしたことで、教育の重要性を理解して貰い、多忙の中、参加の約束を取り付けるところまでは順調でした。しかしながら、私が苦労したのは実施の監督です。日本では当然と思っていることが、当然ではなく、私の予想通りには物事が進展しないのです。外国人の多くは時間にルーズであり、遅刻や計画した教育時間を余裕でオーバーします。事前の調整内容をあたかも当然であるかのように忘れず。教育教場に現れないトラブルが発生し、問い詰めると、理解不明な言い訳をします。また、飽きやすい性格なのか、2回、3回と連続して教育が続くと、直前に自分の職務を放り出したりする者もいるのです。

こういった状況の中、私が注意を払ったのが、「良好な人間関係の維持」と「厳格なマネジメント」のバランスです。前者の人間関係の維持については、教官要員の協力を得るのに不可欠なものです。後者の厳格なマネジメントについては、これなしには計画は予定通りに進みません。具体的には、監視の目を光らせ、彼らに私の存在を親身に感じつつも脅威と映るように演出を行いました。お陰様で、UNMINの任務遂行に支障を来たすことなく、教育訓練を無事終了させる

ことができました。

外国人と付き合うこと以外にも苦労はありましたが、任務を終えて帰国しようとする今、振り返ると、私が得たものは非常に大きく、国連の同僚やネパールの人々（マオイストを含む）に心から感謝出来る心境に達することが出来ました。また、3職兼務という業績を認められ、特別にメダルを拝領する名誉も頂きました。このような機会を得られて幸甚です。

最後に今後のネパールに真の平和が訪れることを祈念して、終わりにしたいと思います。



教育現場の風景